若者問題論 II

科目ナンバリング　SOC-326
選択　　2単位

井上　慧真

1. 授業の概要（ねらい）

現在の自分自身と深くつながっている時期でありながら、日常のなかで改めて考える機会に乏しい思春期・青年期について学ぶ中で、自分自身、そして他者についてより深く理解することを目標とする。

2. 授業の到達目標

思春期・青年期の諸問題のうち、履修者各自の関心のあるテーマを考える視点を身につける。
履修者が講義内容を理解し、小テストに取り組むことができる。

3. 成績評価の方法および基準

毎回の授業における小テストの合計により評価

4. 教科書・参考文献

参考文献
大山泰宏　思春期・青年期の心理臨床　放送大学出版会
宮本みち子　アンダークラス化する若者たちー生活保障をどう立て直すか　明石書店、2021
苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗編　『＜教育＞の社会学　新版ー常識の見方・問い直し方』　有斐閣、2010年

5. 準備学修の内容

シラバスおよび授業中に提示する参考書等を読み、授業内容についての理解を深めること。

6. その他履修上の注意事項

小テストは期限までに受験すること（期限を過ぎてから提出されたものは成績評価の対象としません）。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション
【第2回】　青年期の心の変化と社会
【第3回】　青年期の友人関係と孤独
【第4回】　青年期に抱える困難の多様性ー発達障がい概念の検討から
【第5回】　学校教育と青年期
【第6回】　青年期における異文化への関心
【第7回】　青年期と非行
【第8回】　青年期における不登校・ひきこもり
【第9回】　思春期・青年期と身体
【第10回】　思春期・青年期の困難とその支援ー民間団体の活動を中心に
【第11回】　思春期・青年期の困難とその支援ー地域政策を中心に
【第12回】　思春期・青年期とメディア
【第13回】　成人期への移行ーその実相と困難
【第14回】　思春期・青年期・ポスト青年期ー家族関係を中心に
【第15回】　ライフサイクルと世代性ー思春期・青年期における経験が人生に持つ意味